

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 四国財務局長

【提出日】 令和3年12月27日

【事業年度】 第54期(自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)

【会社名】 道後観光ゴルフ株式会社

【英訳名】 DOGO KANKO GOLF CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中西 清

【本店の所在の場所】 愛媛県松山市下伊台町乙115番地

【電話番号】 (089)977-0111(代表)

【事務連絡者氏名】 総務部長 畠山 礎

【最寄りの連絡場所】 愛媛県松山市下伊台町乙115番地

【電話番号】 (089)977-0111(代表)

【事務連絡者氏名】 総務部長 畠山 礎

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成29年9月	平成30年9月	令和元年9月	令和2年9月	令和3年9月
営業収益 (千円)	362,416	376,232	400,498	339,331	356,443
経常利益又は経常損失 () (千円)	6,302	3,159	14,195	6,030	7,276
当期純利益又は当期純損失 () (千円)	1,062	596	9,504	7,266	7,360
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000
発行済株式総数 (株)	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
純資産額 (千円)	444,894	445,490	454,994	447,728	440,367
総資産額 (千円)	2,286,951	2,274,522	2,250,803	2,270,823	2,245,389
1株当たり純資産額 (円)	24,716.34	24,749.45	25,277.46	24,873.77	24,464.84
1株当たり配当額 (円)					
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	59.03	33.11	528.01	403.68	408.93
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	19.45	19.58	20.21	19.71	19.61
自己資本利益率 (%)	0.23	0.13	2.11	1.60	1.65
株価収益率 (倍)					
配当性向 (%)					
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	39,580	39,794	49,523	24,871	32,804
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	5,658	12,973	9,366	36,384	17,677
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	23,224	34,237	55,517	32,580	24,035
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	29,031	21,614	24,986	46,054	37,145
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕 (人)	30 〔33〕	30 〔37〕	31 〔43〕	28 〔46〕	27 〔44〕

(注) 1 当社は、連結財務諸表を作成していないので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3 当社は、関連会社に対する投資がないので、持分法を適用した場合の投資利益については記載しておりません。

4 当社は、潜在株式がないので、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については記載しておりません。

5 当社は非上場・非登録のため株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価、最低株価は記載しておりません。

2 【沿革】

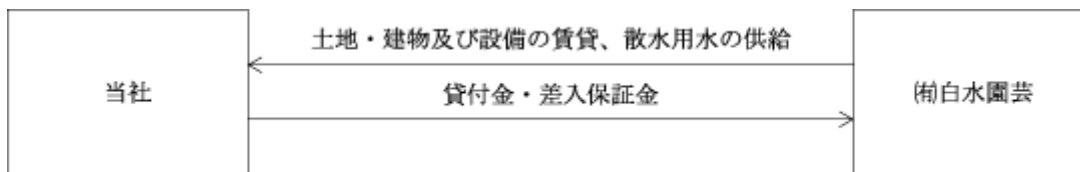
- 昭和43年3月 資本金200万円をもって道後観光ゴルフ株式会社を設立し、ゴルフ場の建設に着手。
- 昭和43年4月 新株式40株を発行し、資本金を240万円とした。
- 昭和43年10月 9ホールコースのゴルフ場を完成し開場。
- 昭和44年10月 新株式5,760株を発行し、資本金を6,000万円とした。
- 昭和45年6月 新株式9,000株を発行し、資本金を15,000万円とした。
- 昭和45年8月 新9ホールコースを完成し、18ホールコースとして営業を開始。
- 昭和50年8月 新株式3,000株を発行し、資本金を18,000万円とした。
- 昭和61年6月 ナイター設備完成。

3 【事業の内容】

当社のセグメントは単一セグメントであり、ゴルフ場の経営を内容としております。当社の企業集団は、当社の役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している関連当事者である有限会社白水園芸で構成されております。

当社のグループの事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

当社 ゴルフ場の経営
有限会社白水園芸 当社へゴルフ場用地の一部及び設備の一部賃貸、散水用水の供給
事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

令和3年9月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
27 〔 44 〕	46	10.7	3,394,414

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
4 当社は、ゴルフ場事業の単一セグメントであるためセグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

(2) 労働組合の状況

現在、当社では労働組合は結成されておらず、労使関係は円満であり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

ゴルフ業界における経営環境は益々その厳しさを増し、高齢化や若者のゴルフ離れによるゴルフ人口の減少や同業者間の競争の激化、景気低迷や新型コロナウイルス感染症による入場者数の伸び悩みなどによる営業収益の減収に対して、人件費を中心にコース管理費用及び一般管理費の削減が追いつかず、収支面は圧迫される傾向にあります。

この事態に対して、従来より経営の合理化、コース整備及び設備投資等の努力をしてきましたが、今後もなお一層の努力を重ね入場者を確保し、収支の改善・財務内容の健全化を図ることが今後の会社の課題であります。

2 【事業等のリスク】

(1) ゴルフ会員権相場下落による預り金返還請求の増加

景気の低迷、ゴルフ人口の減少等による会員権相場の下落は、預託金返還請求の増加となり、当社の資金繰り状況に影響する可能性があります。

(2) プレー料金下落

経営破綻したゴルフ場が営業を継続し、極端に低いプレー料金を打ち出してくること等により、価格競争が激化し、売上が減少する可能性があります。

(3) 新型コロナウイルス感染症について

1月より顕著化した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に流行しており、収束時期は未だ不透明であり、今後の経済活動正常化のタイミングを見通すことが困難であることから、今後事態が長期化または更なる感染拡大が進行した場合、当社の業績及び財務状況に重要な影響を与える可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社はゴルフ場事業しか行っておりませんのでセグメントごとの記載はしていません。

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下、「経営成績等」という。)の概要並びに経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次の通りであります。

(1) 財政状態の状況

a. 流動資産

流動資産は、前事業年度末に比し1,874千円減少し、135,990千円となりました。これは主として未収法人税等が減少した為であります。

b. 固定資産

固定資産は、前事業年度末に比し23,559千円減少し、2,109,398千円となりました。これは主として、固定資産の一部を売却したことと、設備投資額が減価償却費を下回った為であります。

c. 流動負債

流動負債は、前事業年度末に比し3,089千円減少し、68,884千円となりました。これは主として営業未払金及び設備未払金や未払消費税等が減少したためであります。

d. 固定負債

固定負債は、前事業年度末に比し14,983千円減少し、1,736,137千円となりました。これは主として、金融機関からの借入金を返済したことにより長期借入金が減少した為であります。

e. 純資産

純資産は、前事業年度末に比し7,360千円減少し、440,367千円となりました。これは当期純損益が7,360千円の損失となった為であります。

(2) 経営成績の状況

当事業年度における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えず、政府によるまん延防止等重点措置や緊急事態宣言の発令下での経済活動となり、不透明な状況が続きました。ただ一方で、ワクチン接種が加速しており、個人消費や企業業績の回復が期待されております。また、海外においても先進国を中心にワクチン接種が進んでおり、世界的にも景気回復への期待感が高まっております。

当社の属するゴルフ業界におきましては、ゴルフ愛好者の高齢化や同業他社との低価格競争による客単価の低下など、依然として非常に厳しい経営環境にあります。新型コロナウイルス感染症が流行する中、ゴルフが屋外でソーシャルディスタンスを保てるスポーツとして認識されており、国内におけるゴルフ愛好者は増加傾向にあります。

このような経営環境の中、当社はゴルフ場における新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを遵守した上で営業活動を行って参りました。営業活動の強化策としては、コロナ禍で甚大な影響を受けた飲食店を応援する目的でロングランコンペを開催し、一度に大勢の集客を行うのではなく分散継続型の集客を行いました。また、入場者の密も避ける目的で、予約時間帯を分散し、例年よりも早く午後の薄暮スループレーを導入致しました。営業広告活動では、人的な広告活動に制限があるため、SNSを活用した広告活動を中心に実施し、弊社の認知度及び集客効果を向上して参りました。さらに、新規事業としてオフィシャルゴルフスクールを立ち上げ、実際のゴルフコースを使用したツアープロによるレッスンを目玉に収益源の多角化を目指して活動して参りました。

設備面におきましては、グリーンコンディション向上を目的にマルチスプレーヤーなどのコース管理機器の更新を積極的に進めると同時に、老朽化した男子ロッカールームのリニューアルを行い、清潔でゆとりのある空間を提供できるように整備を進めて参りました。

財政面では、新型コロナウイルス感染症拡大による景気低迷により、預り金返還請求が増加することを想定して金融機関から追加融資を受けておりましたが、影響は軽微で限定的だと判断しております。

こうした営業努力により、入場者数では前事業年度に比し2,196名増の35,810名となり、営業収益においても入場者数の大幅な増加により、前事業年度に比し17,111千円(5.0%)増収の356,443千円となりました。また、営業損益では、入場者数の増加予測を元に計画した積極的な設備修繕の実施を行ったものの、夏場の天候不順等の影響により入場者数増加が鈍化した為、前事業年度に比し10,664千円(37.9%)増益の17,425千円の損失となり、経常損益でも同様の理由により、前事業年度に比し1,245千円(20.6%)減益の7,276千円の損失となりました。

最終的な当期純損益におきましては、固定資産売却益を特別利益に計上し、固定資産除却損を特別損失に計上したことにより7,360千円の損失となり、前事業年度に比し94千円(1.2%)の減益となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・フロー及び投資活動によるキャッシュ・フローが増加し、財務活動によるキャッシュ・フローが減少となり、前事業年度末に比し8,908千円(19.3%)減少し、当事業年度末には37,145千円となりました。

当事業年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、前事業年度に比し7,932千円増加の32,804千円となりました。これは主に欠損金により法人税等の支払いが還付になった為であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前事業年度に比し18,706千円増加の17,677千円となりました。これは主に定期預金の払戻による収入と貸付金の回収による収入が増加した為であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前事業年度に比し56,615千円減少の24,035千円となりました。これは主に金融機関からの長期借入による収入が減少した為であります。

当社の資本の財源及び資金の流動性については、営業活動によるキャッシュ・フローを運転資金の主たる財源とし、これに金融機関からの調達資金を加えて、設備投資資金及び預託金の償還資金を賄い、資金の流動性を確保しております。

(4) 生産、受注及び販売の状況

a. 利用者実績

当事業年度の利用実績は次のとおりであります。

項目		第54期 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)	前年同期比
1日当り標準利用者数(イ)	(人)	200	
期中延営業日数(ロ)	(日)	361	9
期中延標準利用者数(イ)×(ロ)=(ハ)	(人)	72,200	1,800
利用者実績数(ニ)	(人)	35,810	2,196
利用割合(ニ)÷(ハ)	(%)	49.5	1.8

b. 営業実績

当事業年度の営業収益実績を科目別に示すと次のとおりであります。

項目		第54期 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)	前年同期比(%)
グリーンフィー	(千円)	160,682	3.5
キャディーフィー	(千円)	15,486	4.9
カートフィー	(千円)	74,922	6.3
受取使用料	(千円)	82	49.5
会費収入	(千円)	33,178	2.1
コンペティションフィー	(千円)	8,625	11.6
名義変更手数料収入	(千円)	7,100	100.0
ゴルフスクール収入	(千円)	2,309	
売店営業収入	(千円)	7,272	4.2
食堂営業収入	(千円)	46,784	5.1
合計	(千円)	356,443	5.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(5) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。

この財務諸表の作成にあたりまして、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者はこれらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

財務諸表の作成にあたって用いた会社の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1)財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社は、コースレイアウトの充実・災害防止・安全面の確保・サービスの向上等を目的として、当事業年度において前事業年度からの計画を含め16,791千円の設備投資を行いました。

主な設備投資として、コース管理大型作業機械導入や男子ロッカールームの設備更新等を実施しました。なお、当事業年度において収容能力、又は業績に影響を与える重要な設備の除却、売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

令和3年9月30日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)	
		建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
本社 (愛媛県松山市下 伊台)	ゴルフ場	339,168	14,138	1,523,144 (617,533.46)	90,242	1,966,693	27
本社 (愛媛県松山市下 伊台)	クラブハウス他	46,396	2,718	()	14,346	63,461	

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は工具器具備品、立木及びリース資産であります。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2 上記の他重要な賃借設備は、下記のとおりであります。

種類	設備内容	数量	リース料又は 賃借料(月額) (千円)
土地	ゴルフコース及び クラブハウス用土地	65,908㎡ (公簿)	1,050
"	ゴルフコース用土地	3,668㎡ (公簿)	155
建物	管理棟	296.0㎡	68

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000
計	24,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (令和3年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (令和3年12月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,000	18,000	非上場 非登録	単元株制度を採用していません。
計	18,000	18,000		

(注) 株式の譲渡制限に関する規定は次の通りであります。

当社の発行する全部の株式について、会社法第107条第1項第1号に定める内容(いわゆる譲渡制限)を定めており、当該株式の譲渡又は取得について取締役会の承認を要する旨を定款第7条において定めております。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
昭和50年8月29日	3,000	18,000	30,000	180,000		

(注) 第三者割当 3,000株 道後ゴルフ倶楽部会員に対して2株宛割当を実施。

発行価格 10,000円

資本組入額 10,000円

(5) 【所有者別状況】

令和3年9月30日現在

区分	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計
					個人以外	個人		
株主数 (人)	0	3	1	165	0	0	867	1,036
所有株式数 (株)	0	54	2	1,023	0	0	16,921	18,000
所有株式数の割 合(%)	0.00	0.30	0.01	5.68	0.00	0.00	94.00	100.00

(6) 【大株主の状況】

令和3年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
中西 清	愛媛県松山市	3,523	19.57
平岡 秀幸	愛媛県松山市	3,372	18.73
平松 俊夫	愛媛県松山市	2,456	13.64
能田 清則	愛媛県松山市	1,301	7.23
森 一男	愛媛県松山市	1,160	6.44
平松 秀夫	愛媛県松山市	589	3.27
中西 清久	愛媛県松山市	505	2.81
中西 清大	愛媛県松山市	500	2.78
有限会社 白水園芸	愛媛県松山市下伊台町乙115番地	230	1.28
中西 雄二	愛媛県松山市	150	0.83
計		13,786	76.59

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

令和3年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,000	18,000	
発行済株式総数	18,000		
総株主の議決権		18,000	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、定款において期末配当を行うこととし、配当の決定については株主総会で決議することとしておりますが、事業の性格上創業以来株主に対する利益還元方法として株主会員を含むゴルフ場利用者へのサービスの向上、設備の改善強化を目標としており、配当は実施しておりません。内部保留資金については、経営体質の充実及び将来の事業展開に役立てることとしております。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとする利害関係者の皆様に対して、経営の健全性、透明性及び効率性を確保することをコーポレート・ガバナンスの基本と考えております。コンプライアンスについては、経営陣のみならず、全社員が認識し実践することが重要であると考えております。

コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

当社の取締役会は、定款において取締役の定数を3名以上置くと定めておりますが、令和3年12月27日現在6名の取締役で構成され、原則として毎月1回定例取締役会を、また必要に応じて臨時取締役会を開催し、自由な雰囲気の中で十分な議論を尽くして経営上の意思決定を行っております。

監査役は、定款において2名以内を置くと定めており、令和3年12月27日現在1名ですが、取締役会に出席し、取締役の職務執行について厳正な監視を行っております。

なお、取締役並びに監査役の選任は、議決権の行使することのできる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらない旨を定款で定めております。

当社は小規模な会社であり、組織として内部監査部門は存在しておりませんが、取締役は現場に密着した職務執行が可能となっております。

取締役、監査役及び会計監査人は随時面談し、相互の意思疎通に努めております。

また、社長及び各部門の責任者で構成する社内会議を必要に応じ開催し、会社方針の伝達、問題事項の把握及び改善策の議論を行うとともに、コンプライアンスの重要性の認識並びに意識向上を図っております。

取締役の年間報酬は9,000千円、監査役の年間報酬は360千円であります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性7名 女性0名（役員のうち女性の比率0%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	中西 清	昭和28年4月18日生	昭和63年12月 平成5年10月 平成6年12月 平成10年12月 平成20年9月 平成25年1月 道後観光ゴルフ(株)監査役 (有)番町タクシー代表取締役社長(兼) 松一観光(有)代表取締役社長(兼) (有)新和タクシー代表取締役社長(兼) 道後観光ゴルフ(株)取締役 道後観光ゴルフ(株)専務取締役 道後観光ゴルフ(株)代表取締役社長(現在) (有)白水園芸代表取締役社長(兼)	(注4)	3,523
専務取締役	中西 清 大	平成元年3月29日生	令和元年12月 令和3年12月 道後観光ゴルフ(株)監査役 道後観光ゴルフ(株)専務取締役(現在)	(注5)	500
取締役	平岡 秀 幸	昭和33年1月9日生	昭和58年9月 昭和63年12月 令和元年12月 温泉青果農業協同組合入組 道後観光ゴルフ(株)監査役 道後観光ゴルフ(株)取締役(現在)	(注4)	3,372
取締役	平松 秀 夫	昭和6年1月10日生	昭和45年12月 道後観光ゴルフ(株)取締役(現在)	(注4)	589
取締役	森 一 男	昭和29年10月2日生	平成12年12月 道後観光ゴルフ(株)取締役(現在)	(注4)	1,160
取締役	能田 清 則	昭和39年6月1日生	平成28年12月 道後観光ゴルフ(株)取締役(現在)	(注4)	1,301
監査役	平岡 直 哉	昭和61年11月27日生	令和3年12月 道後観光ゴルフ(株)監査役(現在)	(注6)	
計					10,445

(注1) 取締役の中西 清、中西清大以外は社外取締役であります。

(注2) 専務取締役中西清大は代表取締役中西 清の次男であります。

(注3) 監査役平岡直哉は取締役平岡秀幸の次男であります。

(注4) 任期は令和2年9月期に係る定時株主総会終結の時から令和4年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(注5) 任期は令和3年9月期に係る定時株主総会終結の時から令和5年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(注6) 監査役平岡直哉は、辞任した中西清大の補欠として選任され、任期は令和3年9月期に係る定時株主総会終結の時から令和5年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、取締役会を含む重要な会議への出席、当社部課長とのヒアリング等による業務監査の実施、及び会計監査を行うことにより、取締役の業務執行の妥当性・適法性につき監査を行っております。

内部監査の状況

当社は特に内部監査組織を設けていないが社長室長が業務全般にわたって管理監督を行っており、中間決算、年度決算等について監査役との間で情報交換を行っております。

会計監査の状況

イ．監査法人の名称

愛光監査法人

ロ．継続監査期間

21年

愛光監査法人の設立前に個人事務所が監査を実施していた期間を含めると継続監査期間は52年になります。

ハ．業務を執行した公認会計士

福澤 秀晃

ニ．監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士1名であり、愛光監査法人に所属しております。

ホ．監査法人の選定方針と理由

当社の監査法人の選定方針は、監査法人から監査計画等について説明を受けた上で、監査法人の品質管理体制、独立性、専門性及び過年度の監査実績等を総合的に勘案し、当監査法人が適任と判断し選定しております。

ヘ．監査役による監査法人の評価

当社の監査役は、監査法人からの監査計画、監査の実施状況及びその結果について報告を受けた上で、当社の重要な決済書類等を閲覧し、計算書類及びその附属明細書等について検討しており、その結果、適切な監査が実施されていることを確認しております。

監査報酬の内容等

イ．監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
1,500		1,500	

ロ．監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬

該当事項はありません。

ハ．その他の重要な監査証明業務に基づく報酬

該当事項はありません。

ニ．監査報酬の決定方針

当社の監査法人に対する監査報酬の決定方針は、監査計画に基づく監査予定時間により決定しております。

(4) 【役員の報酬等】

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(令和2年10月1日から令和3年9月30日まで)の財務諸表について、愛光監査法人の監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年9月30日)	当事業年度 (令和3年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	98,854	99,145
営業未収入金	23,959	25,285
貸倒引当金	156	182
営業未収入金(純額)	23,802	25,103
商品	1,624	1,358
貯蔵品	2,050	2,183
前払費用	2,836	2,771
短期貸付金	439	516
未収還付法人税等	2,291	
その他	5,965	4,911
流動資産合計	137,865	135,990
固定資産		
有形固定資産		
建物	370,774	374,395
減価償却累計額	316,188	321,005
建物(純額)	54,586	53,389
構築物	1,367,648	1,367,648
減価償却累計額	1,021,908	1,035,472
構築物(純額)	345,739	332,175
機械及び装置	129,054	127,154
減価償却累計額	107,290	110,973
機械及び装置(純額)	21,763	16,181
車両運搬具	26,236	26,236
減価償却累計額	24,698	25,560
車両運搬具(純額)	1,538	675
工具、器具及び備品	74,570	77,102
減価償却累計額	70,262	72,035
工具、器具及び備品(純額)	4,307	5,066
土地	1,523,144	1,523,144
リース資産	138,560	147,689
減価償却累計額	97,573	109,990
リース資産(純額)	40,986	37,698
立木	61,823	61,823
有形固定資産合計	2,053,889	2,030,155
無形固定資産		
電話加入権	1,371	1,371
ソフトウェア	1,686	1,862
無形固定資産合計	3,058	3,233
投資その他の資産		
出資金	3,010	3,010
差入保証金	73,000	73,000
投資その他の資産合計	76,010	76,010
固定資産合計	2,132,957	2,109,398
資産合計	2,270,823	2,245,389

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年9月30日)	当事業年度 (令和3年9月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	11,940	10,636
1年内返済予定の長期借入金	1 20,004	1 20,660
リース債務	12,329	13,470
未払金	1,910	
未払費用	6,387	5,049
未払法人税等	1,172	1,742
未払消費税等	6,892	5,542
預り金	2,762	2,740
前受収益	4,350	4,974
賞与引当金	4,225	4,067
流動負債合計	71,974	68,884
固定負債		
長期借入金	1 88,658	1 67,998
リース債務	31,632	27,161
繰延税金負債	885	610
退職給付引当金	13,161	14,244
長期預り金	524,125	551,875
株主預り金	1,092,658	1,074,248
固定負債合計	1,751,120	1,736,137
負債合計	1,823,095	1,805,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	180,000	180,000
利益剰余金		
利益準備金	28,405	28,405
その他利益剰余金		
会員預り金返還積立金	60,000	60,000
固定資産圧縮積立金	2,016	1,390
別途積立金	10,000	10,000
繰越利益剰余金	167,306	160,571
利益剰余金合計	267,728	260,367
株主資本合計	447,728	440,367
純資産合計	447,728	440,367
負債純資産合計	2,270,823	2,245,389

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
営業収益		
ゴルフ営業収入		
グリーンフィー	155,193	160,682
キャディーフィー	16,284	15,486
カートフィー	70,417	74,922
受取使用料	163	82
コンペティションフィー	7,727	8,625
名義変更手数料収入	3,550	7,100
会費収入	33,914	33,178
ゴルフスクール収入		2,309
ゴルフ営業収入合計	287,251	302,386
売店営業収入	7,591	7,272
食堂営業収入	44,488	46,784
営業収益合計	339,331	356,443
営業原価		
ゴルフ営業原価		
給料手当	20,211	20,097
賃金手当	12,232	10,700
職員賞与	3,076	3,184
キャディー手当	30,653	27,080
法定福利費	7,018	6,686
福利厚生費	387	603
競技会費用	8,305	8,937
消耗品費		323
修繕費	904	970
地代家賃	15,278	15,278
コース維持費	35,427	34,424
減価償却費	38,075	35,429
燃料費	1,768	1,871
賞与引当金繰入額	2,113	2,190
退職給付費用	1,104	551
ゴルフ営業原価合計	176,554	168,329
売店営業原価		
商品期首棚卸高	1,540	1,624
当期商品仕入高	5,373	5,198
商品期末棚卸高	1,624	1,358
売店営業原価合計	5,289	5,464

(単位：千円)

	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
食堂営業原価		
給料手当	15,232	15,631
賃金手当	11,524	11,460
職員賞与	1,328	1,890
法定福利費	2,414	2,605
福利厚生費	131	173
消耗品費	1,478	1,829
修繕費	244	271
水道光熱費	920	1,235
食材仕入費	15,362	15,865
賞与引当金繰入額	754	782
退職給付費用	364	279
雑費	770	705
食堂営業原価合計	50,524	52,730
営業原価合計	232,368	226,524
営業総利益	106,962	129,919
一般管理費		
役員報酬	9,300	9,360
給料	26,989	28,235
賃金	12,786	13,295
従業員賞与	2,394	2,777
法定福利費	7,027	8,322
福利厚生費	1,032	925
広告宣伝費	557	1,356
旅費及び交通費	82	84
通信費	1,754	1,582
事務用品費	962	834
図書印刷費	1,475	1,804
会議費	297	313
交際費	656	388
消耗品費	4,297	3,697
修繕費	2,761	9,840
減価償却費	4,675	4,921
水道光熱費	15,659	14,781
燃料費	98	33
租税公課	8,953	8,840
保険料	4,535	6,077
支払手数料	22,010	26,054
支払負担金	4,686	1,938
賞与引当金繰入額	1,358	1,095
貸倒引当金繰入額		26
退職給付費用	273	251
雑費	429	507
一般管理費合計	135,052	147,344
営業損失()	28,089	17,425

(単位：千円)

	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
営業外収益		
受取利息	10	21
受取配当金	120	120
受取地代家賃	2,250	2,250
雑収入	20,313	8,231
貸倒引当金戻入額	33	
営業外収益合計	22,727	10,622
営業外費用		
支払利息	465	411
雑損失	202	62
営業外費用合計	668	473
経常損失()	6,030	7,276
特別利益		
固定資産売却益		1 799
特別利益合計		799
特別損失		
固定資産除却損	1 624	1 540
特別損失合計	624	540
税引前当期純損失()	6,655	7,016
法人税、住民税及び事業税	619	619
法人税等調整額	7	274
法人税等合計	611	344
当期純損失()	7,266	7,360

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本								純資産合計
	資本金	利益剰余金						株主資本 合計	
		利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計		
			会員預り金 返還積立金	固定資産圧 縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	180,000	28,405	60,000	2,034	10,000	174,554	274,994	454,994	454,994
当期変動額									
固定資産圧縮積立金の積立				620		620			
固定資産圧縮積立金の取崩				638		638			
当期純損失()						7,266	7,266	7,266	7,266
当期変動額合計				17		7,248	7,266	7,266	7,266
当期末残高	180,000	28,405	60,000	2,016	10,000	167,306	267,728	447,728	447,728

当事業年度(自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本								純資産合計
	資本金	利益剰余金						株主資本 合計	
		利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計		
			会員預り金 返還積立金	固定資産圧 縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	180,000	28,405	60,000	2,016	10,000	167,306	267,728	447,728	447,728
当期変動額									
固定資産圧縮積立金の積立									
固定資産圧縮積立金の取崩				626		626			
当期純損失()						7,360	7,360	7,360	7,360
当期変動額合計				626		6,734	7,360	7,360	7,360
当期末残高	180,000	28,405	60,000	1,390	10,000	160,571	260,367	440,367	440,367

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失()	6,655	7,016
減価償却費	42,750	40,351
有形固定資産売却損益(は益)		799
有形固定資産除却損	624	540
賞与引当金の増減額(は減少)	1,182	158
退職給付引当金の増減額(は減少)	421	1,082
貸倒引当金の増減額(は減少)	33	26
受取利息及び受取配当金	130	141
支払利息	465	411
売上債権の増減額(は増加)	43	1,326
たな卸資産の増減額(は増加)	48	132
その他の流動資産の増減額(は増加)	4,076	1,125
仕入債務の増減額(は減少)	3,344	1,303
未払費用の増減額(は減少)	744	1,337
その他の流動負債の増減額(は減少)	369	609
小計	29,218	30,976
利息及び配当金の受取額	144	128
利息の支払額	471	405
法人税等の支払額	4,020	186
法人税等の還付額		2,291
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,871	32,804
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	67,800	65,200
定期預金の払戻による収入	40,000	56,000
貸付けによる支出	304	5,051
貸付金の回収による収入	1,960	4,975
その他の無形固定資産の取得による支出		710
有形固定資産の取得による支出	10,239	7,950
固定資産の売却による収入		800
固定資産の除却による支出		540
投資活動によるキャッシュ・フロー	36,384	17,677
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	80,000	
長期借入金の返済による支出	22,207	20,004
長期預り金の受入による収入	39,150	37,000
長期預り金の返済による支出	10,000	18,250
株主からの長期預り金受入による収入	7,870	12,400
株主からの長期預り金返済による支出	48,790	21,810
ファイナンス・リース債務の返済による支出	13,442	13,371
財務活動によるキャッシュ・フロー	32,580	24,035
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	21,067	8,908
現金及び現金同等物の期首残高	24,986	46,054
現金及び現金同等物の期末残高	1 46,054	1 37,145

【注記事項】

(重要な会計方針)

- 1 たな卸資産の評価基準及び評価方法
たな卸資産の評価基準及び評価方法は最終仕入原価法による原価基準(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。
- 2 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)
定率法によっております。
ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
 - (2) 無形固定資産(リース資産を除く)
ソフトウェア(自社利用分)については、当社における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
 - (3) リース資産
所有権移転外ファイナンスリース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。
- 3 引当金の計上基準
 - 貸倒引当金
営業未収入金等債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。
 - a 一般債権
貸倒実績率による見積額を計上しております。
 - b 貸倒懸念債権
個別債権の回収可能性を検討し、必要額を計上しております。
 - 賞与引当金
従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
 - 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- 4 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。
- 5 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

繰延税金資産 千円 (繰延税金負債 610千円)

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は繰延税金資産については、全額回収可能性がないと判断し、評価性引当額を控除したため計上しておりません。なお、貸借対照表に計上されている繰延税金負債は将来減算一時差異と相殺できない将来加算一時差異に基づくものであります。

繰延税金資産の回収可能性の判断については、過去の実績等を勘案し合理的な方法により見積りを行っております。

新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、令和2年度下期よりゴルフ場への来場者数も回復傾向にあり今後も緩やかに回復するものと仮定して、会計上の見積りを行っております。

なお、今後の新型コロナウイルス感染症による影響は不確実性が高いため、感染者数の再拡大や長期化により、将来の財政状況及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日企業会計基準委員会)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

令和4年9月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の年度末に係る財務諸表から適用し、財務諸表に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

ただし、当該注記においては、当該会計基準第11項ただし書きに定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る内容については記載しておりません。

(貸借対照表関係)

1 前事業年度(令和2年9月30日)

土地の一部847,230千円(帳簿価額)には、伊予銀行350,000千円、愛媛信用金庫240,000千円の根抵当権が設定されております。

なお、期末現在における長期借入金(1年以内返済長期借入金を含む)伊予銀行38,651千円及び愛媛信用金庫11,000千円は、上記抵当権を使用しております。

当事業年度(令和3年9月30日)

土地の一部847,230千円(帳簿価額)には、伊予銀行350,000千円、愛媛信用金庫240,000千円の根抵当権が設定されております。

なお、期末現在における長期借入金(1年以内返済長期借入金を含む)伊予銀行28,643千円及び愛媛信用金庫5,000千円は、上記抵当権を使用しております。

(損益計算書関係)

1 前事業年度(自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)

固定資産除却損は、機械及び装置(ローラー大他)及び車両運搬具(ダイハツハイゼット4WD他)の除却損であります。

当事業年度(自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)

固定資産売却益は、機械及び装置(コマツPC40MR-2)の売却益であります。

固定資産除却損は、男子ロッカールーム改装工事伴う一部設備の除却損であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	18,000			18,000

当事業年度(自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	18,000			18,000

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
現金及び預金	98,854千円	99,145千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	52,800千円	62,000千円
現金及び現金同等物	46,054千円	37,145千円

(リース取引関係)

重要性がないため記載を省略しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金運用を主としていますが、関連当事者である有限会社白水園芸にその設備投資資金や運転資金を貸し付けております。

資金調達については、必要な資金の大半は自己資金を充当しておりますが、一部金融機関からの借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにその管理体制

売掛金等に係る信用リスクは、当社の場合少額で影響は軽微であり、また会員の未納年会費に係る信用リスクは、会員からの預託金で充当可能であります。有限会社白水園芸への貸付金については、当社の役員は同社の役員を兼任しており、同社の状況は常に把握・管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、下表には含めておりません。

前事業年度(令和2年9月30日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
現金及び預金	98,854	98,854	
長期貸付金			
資産計	98,854	98,854	
長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)	108,662	106,635	2,026
負債計	108,662	106,635	2,026

当事業年度(令和3年9月30日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
現金及び預金	99,145	99,145	
長期貸付金			
資産計	99,145	99,145	
長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)	88,658	86,841	1,816
負債計	88,658	86,841	1,816

(注1) 金融商品の時価の算定方法

現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

長期貸付金

元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)

元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:千円)

	令和2年9月30日	令和3年9月30日
差入保証金	73,000	73,000
長期預り金	524,125	551,875
株主預り金	1,092,658	1,074,248

差入保証金は、ゴルフ場用地の賃借契約に基づく保証金であり、返還される時期が明らかでないことから、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが極めて困難と認められるため時価の開示対象としておりません。

長期預り金及び株主預り金は、会員からの預り金であり、償還の請求時期が明らかでないことから、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが極めて困難と認められるため時価の開示対象としておりません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(令和2年9月30日)

区分	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)	5年超10年以内(千円)	10年超(千円)
現金及び預金	98,854			
長期貸付金 ()				
合計	98,854			

() 1年内回収予定の長期貸付金は、長期貸付金に含めて表示しております。

当事業年度(令和3年9月30日)

区分	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)	5年超10年以内(千円)	10年超(千円)
現金及び預金	99,145			
長期貸付金 ()				
合計	99,145			

() 1年内回収予定の長期貸付金は、長期貸付金に含めて表示しております。

(注4) 長期借入金の決算日後の返還予定額

前事業年度(令和2年9月30日)

区分	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	20,004	20,660	12,446	14,684	9,868	31,000

当事業年度(令和3年9月30日)

区分	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	20,660	12,446	14,684	9,868	7,368	23,632

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度を採用しております。

確定給付型の退職一時金制度(非積立型制度であります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当社の退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
退職給付引当金の期首残高	12,740	13,161
退職給付費用	1,009	1,082
退職給付の支払額	588	
退職給付引当金の期末残高	13,161	14,244

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(千円)

	前事業年度 (令和2年9月30日)	当事業年度 (令和3年9月30日)
非積立型制度の退職給付債務	13,161	14,244
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	13,161	14,244
退職給付引当金	13,161	14,244
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	13,161	14,244

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前事業年度 1,009千円 当事業年度 1,082千円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前事業年度 (令和2年9月30日)	当事業年度 (令和3年9月30日)
賞与引当金	1,288千円	1,240千円
貸倒引当金	47千円	55千円
退職給付引当金	4,014千円	4,344千円
未払費用	756千円	758千円
前受収益	181千円	180千円
未払事業税	154千円	350千円
税務上の繰越欠損金(注)	2,494千円	3,761千円
小計	8,937千円	10,691千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	2,494千円	3,761千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	6,443千円	6,930千円
評価性引当額小計	8,937千円	10,691千円
繰延税金資産合計	千円	千円

(繰延税金負債)

	前事業年度 (令和2年9月30日)	当事業年度 (令和3年9月30日)
固定資産圧縮積立金	885千円	610千円
繰延税金負債合計	885千円	610千円

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度(令和2年9月30日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)						2,494	2,494千円
評価性引当額						2,494	2,494千円
繰延税金資産							千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当事業年度(令和3年9月30日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)						3,761	3,761千円
評価性引当額						3,761	3,761千円
繰延税金資産							千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (令和2年9月30日)	当事業年度 (令和3年9月30日)
法定実効税率	30.5%	30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金算入されない項目	3.0%	1.7%
受取配当金等永久に益金算入されない項目	0.1%	0.1%
住民税均等割	9.3%	8.8%
評価性引当額増減	27.4%	25.0%
その他	0.0%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	9.1%	4.9%

(賃貸等不動産関係)

重要性がないため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社はゴルフ場の経営を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が、損益計算書の売上高の90%を超えるため記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

当事業年度の売上高は、すべて本邦の外部顧客への売上高のため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当事業年度貸借対照表の有形固定資産は、すべて本邦に所在しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、当事業年度損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が、損益計算書の売上高の90%を超えるため記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

当事業年度の売上高は、すべて本邦の外部顧客への売上高のため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当事業年度貸借対照表の有形固定資産は、すべて本邦に所在しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、当事業年度損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る）等

前事業年度(自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等（当該会社等の子会社を含む）	(有)白水園芸 (注3)	愛媛県 松山市	5,500	不動産等 賃貸業	所有なし 被所有 (直接) (1.1)	土地、建物及び設備の貸付 (注1) 役員の兼任	地代の支払	12,600	差入保証金 短期貸付金 その他流動資産	70,000 439 2
							設備賃借料の支払	818		
							保証金の差入	1,655		
							貸付金の回収 (注2)			
利息の受取	7									

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 有限会社白水園芸との賃貸借価額については、物件の時価、取得価格等を考慮して契約を締結しております。

(注2) 同社に対する貸付金利率については、当社の金融機関からの借入可能利率に基づいて決定しております。

(注3) 当社役員5名が議決権の100%を直接所有しております。

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当事業年度(自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社等の子会社を含む)	(有)白水園芸 (注3)	愛媛県 松山市	5,500	不動産等 賃貸業	所有なし 被所有 (直接) (1.3)	土地、建物及び設備の貸付 (注1) 役員の兼任	地代の支払	12,600	差入保証金 短期貸付金 その他流動資産	70,000 516 14
							設備賃借料の支払	818		
							保証金の差入			
							貸付金の貸付(注2)	5,051		
							貸付金の回収	4,975		
利息の受取	16									

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) 有限会社白水園芸との賃貸借借額については、物件の時価、取得価格等を考慮して契約を締結しております。
- (注2) 同社に対する貸付金利率については、当社の金融機関からの借入可能利率に基づいて決定しております。
- (注3) 当社役員5名が議決権の100%を直接所有しております。
- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
1株当たり純資産額	24,873.77円	24,464.84円
1株当たり当期純損失金額()	403.68円	408.93円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

項 目	前事業年度 (自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日)	当事業年度 (自 令和2年10月1日 至 令和3年9月30日)
当期純損失()(千円)	7,266	7,360
普通株式に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純損失()(千円)	7,266	7,360
普通株式の期中平均株式数(株)	18,000	18,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物				374,395	321,005	4,817	53,389
構築物				1,367,648	1,035,472	13,563	332,175
機械及び装置				127,154	110,973	6,382	16,181
車両運搬具				26,236	25,560	862	675
工具、器具及び備品				77,102	72,035	1,773	5,066
リース資産				147,689	109,990	12,416	37,698
土地				1,523,144			1,523,144
立木				61,823			61,823
有形固定資産計				3,705,193	1,675,038	39,816	2,030,155
無形固定資産							
電話加入権				1,371			1,371
ソフトウェア				2,910	1,047	534	1,862
無形固定資産計				4,281	1,047	534	3,233

(注) 1 有形固定資産の当事業年度における増加額及び減少額がいずれも当事業年度末における有形固定資産の総額の5%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

2 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【借入金等明細表】

区 分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金	20,004	20,660	0.54	
1年以内に返済予定のリース債務	12,329	13,470		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	88,658	67,998	0.54	令和4.12.18~ 令和12.7.29
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	31,632	27,161		令和5.1.27~ 令和10.7.25
その他有利子負債				
合 計	152,624	129,290		

(注)1 平均利率については、借入金等期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を掲載しておりません。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

区 分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	12,446	14,684	9,868	7,368
リース債務	10,503	7,751	5,190	2,285

【引当金明細表】

区 分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	156	182		156	182
賞与引当金	4,225	4,067	4,225		4,067

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

金融機関	種類	期末現在高(千円)
手許有高	現金	1,575
小計		1,575
株式会社伊予銀行	普通預金	17,729
愛媛信用金庫	"	9,468
株式会社愛媛銀行	"	3,789
株式会社広島銀行	"	453
株式会社みずほ銀行	"	1,456
株式会社四国銀行	"	347
株式会社阿波銀行	"	1,397
えひめ中央農業協同組合	"	298
小計		34,940
株式会社伊予銀行	当座預金	20
愛媛信用金庫	"	608
小計		629
株式会社伊予銀行	定期預金	50,000
株式会社愛媛銀行	"	10,000
小計		60,000
株式会社伊予銀行	定期積金	2,000
小計		2,000
合計		99,145

営業未収入金
(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社いよぎんディーシーカード	7,117
株式会社ジェイシービー	4,987
PayPay株式会社	740
その他	12,440
合計	25,285

(ロ)営業未収入金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	当期貸倒償却 (千円)	当期末残高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2} \times \frac{365}{(B)}$
23,959	33,877	32,550		25,285	56.3	265

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

商品

分類	細目	金額(千円)
ゴルフボール他	P H Y Z 他	354
タバコ	メビウス他	31
その他		972
合計		1,358

貯蔵品

分類	細目	金額(千円)
農薬	セルカディスフロアブル他	464
肥料	苦土石灰他	265
食材	出汁昆布他	974
その他		477
合計		2,183

営業未払金

相手先	金額(千円)
村上産業株式会社	2,324
新玉電気工事株式会社	1,571
有限会社愛和道後光田石油	764
株式会社エンタープライズ・カンパニー	528
株式会社ベネアス	309
その他	5,138
合計	10,636

長期預り金

相手先	金額(千円)
岸 小 三 郎	6,000
黒 川 倫 行	5,000
三 好 典 史	5,000
その他	535,875
合計	551,875

株主預り金

相手先	金額(千円)
末 光 清 貞	580
高 橋 圭 子	580
大 井 淳 道	580
その他	1,072,508
合計	1,074,248

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
株券の種類	1株券、2株券、3株券、5株券、10株券、100株券
剰余金の配当の基準日	該当事項なし
1単元の株式数	該当事項なし
株式の名義書換え	
取扱場所	道後観光ゴルフ株式会社 本店
株主名簿管理人	該当事項なし
取次所	該当事項なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
株券喪失登録	1件につき1,000円
単元未満株式の買取り	
取扱場所	該当事項なし
株主名簿管理人	該当事項なし
取次所	該当事項なし
買取手数料	該当事項なし
公告掲載方法	松山市において発行する愛媛新聞
株主に対する特典	該当事項なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書及び その添付書類	事業年度 (第53期)	自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日	令和2年12月25日 四国財務局長に提出
(2)	半期報告書	(第54期中)	自 令和2年10月1日 至 令和3年3月31日	令和3年6月28日 四国財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

令和3年12月24日

道後観光ゴルフ株式会社
取締役会 御中

愛光監査法人

愛媛県松山市

代表社員 公認会計士 福澤 秀晃
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている道後観光ゴルフ株式会社の令和2年10月1日から令和3年9月30日までの第54期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、道後観光ゴルフ株式会社の令和3年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役への責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業を前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役への責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。